



## みなとみらい21中央地区水際公園(高島水際線公園)

株式会社プレック研究所 村上 章・黛 卓郎・棚瀬新一朗・畑 隆弘

### □業務の目的

みなとみらい21中央地区「高島水際線公園」において、帷子川の河口部汽水域に隣接している立地特性から、その豊かな自然環境を活用し、利用者が安全かつ身近に自然を体感できる水辺空間の設計及び管理運営方策の検討を行った。

### □敷地概要

「高島水際線公園」は、みなとみらい21地区北西端部に位置する近隣公園である。JR 横浜駅やみなとみらい21線新高島駅から徒歩10分以内の距離に位置し、多

くの市民が集散する都心に近く、市民の利活用において優れた立地特性を有している。敷地形状は東西に細長く、北側は二級河川帷子川（神奈川県管理）に面している。中央を通る JR 高島線（貨物線）により二分された東西エリアは、公園連絡橋（公園と一体的に整備）により渡ることができる。

### □計画概要（「潮入の池」の整備）

帷子川の親水性と景観を活かしつつ、来園者にくつろぎや潤いを与える公園を目指し、「大都市の中においても豊かな自然を安全かつ身近に感じ育てることがで



西側ゾーン：潮入の池

潮入の池では、2箇所の連通管により、帷子川の水を引き込んでいる。深さ（冠水の頻度）と底質により、干潮時に「干潟」となる2区域と、常時冠水している「溜まり」の3区域を設けている。さらに、磯場や潮溜まり、カニ生息用擁壁を整備することで、より多様な環境を創出している。

潮入の池（満潮時）



潮入の池（干潮時）

## 作品概要

作品名：みなとみらい21中央地区水際公園(高島水際線公園)  
 所在地：神奈川県横浜市西区みなとみらい中央地区(みなとみらい6丁目)  
 発注：独立行政法人都市再生機構  
 設計：株式会社ブレック研究所  
 設計期間：調査・基本計画：2004年11月～2006年3月  
 基本設計・実施設計：2006年4月～2009年3月  
 監理運営方策作成：2010年8月～2011年10月  
 規模：約1.3ha  
 主要施設：西側ゾーン：潮入の池  
 東側ゾーン：芝生広場

## 作品評

この作品は、帷子川河口部の汽水域に隣接した細長い敷地を公園化したものである。「大都市の中においても豊かな自然を安全かつ身近に感じ育てることができる公園」というテーマで、環境調査・基本計画～実施設計・管理方策検討まで担当している。このような一貫した対応により、コンセプトならびに敷地計画などの基本的な考え方が、最終成果としての現地に表現されている点が評価された。

また、「潮入の池」では、冠水頻度に合わせたレベル設定や底質のパラエティーなど、多様な生物生息環境を作るための基礎的な調査と技術検討が十分になされ、具体化している。また、貨物線により分断された敷地の特性を活用して、変化に富んだ土地利用が図られている。

きる公園」をテーマに、東側ゾーンを「くつろぎの場」、西側ゾーンを「親水空間の場」として計画・設計を行った。

西側ゾーンの帷子川に面している部分は、平成18年度に環境に配慮した自然型護岸「生態護岸(神奈川県管理)」として整備したが、周辺護岸が直立型であるところを親水型とすることにより、多様な生物の生息の場を提供しており、公園整備前の生物調査段階においても生物の定着が確認されていた。

このことから、西側ゾーンでは、河口部汽水域の多

様な生物の生息空間の創出、都市の貴重な自然環境の保全・再生を目的とし、帷子川の水を連通管により引き入れ、潮の干満により水位が変化する「潮入の池」を整備した。「潮入の池」では、深さ(冠水の頻度)や底質の異なる環境をつくり、さらに磯場や潮溜まり、カニ生息用擁壁を整備することで、より多様な環境を創出している。

「高島水際線公園」は、大都会の中において水辺の生き物を身近に感じることができ、豊かな自然体験が得られる環境教育の場を提供している。



平面図



西側ゾーン：潮入の池



モニュメント

「みなとみらい21中央地区土地画整理事業」の造成工事の際に発見された歴史資産をモニュメントにしている。



トイレ



パーゴラ



東側ゾーン：芝生広場

かつてこの地が高島埠頭であったことを示す船の線形をイメージした広場デザイン